

こども通信

気象の世界では3月からは春。例年はまだ先なのと思つのですが、今年はすでに春の実感があります。

でも、今の日本はとても春の華やかさを感じられません。大きな暗雲が私たちの頭上を厚くおおつていてからです。

* * *



暗雲の一つは新型コロナ感染症。いよいよ身近に迫ってきました。

人類が初めて遭遇するウイルス。無症状であつたり、軽症ですむ人もいて、感染を食い止めることが不可能な。封じ込めはできませんでした。

全世界的な流行（パンデミック）が近づく今、私たちに何ができるのか、改めて考えさせられます。

流行は止められません。でもそのスピードを抑えることはできます。

今般の新型コロナの流行に対しても、しっかりと対応できているのか、はなはだ疑問です。臨床の現場では、PCR検査が容易にできないことも大きな問題になっています。

政府の要請で全国の学校の一斉休業が行われますが、医学的に効果があるのか、疑問です。また安心して休ませられる環境を作らなければ、国民に負担を押しつけるだけです。

暗雲が消え去り、晴れ晴れとした気分になれるのはいつなのでしょう。しばらくかかるそうです。

今後の動向を注視しましょう。

もう一つの暗雲・・それは政治ではないでしょうか。これまでの姿勢は、身内は大切にするけれど、国民の一人ひとりに田を行き届かせねー」とがなかつたように思います。

塙田こども医院

小児科・アレルギー科
上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7779(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456

各種ネット予約
www.0255447777.com/i
ホームページ
www.kodomo-iin.com

感染症情報

今シーズンのインフルエンザはすでに峠を越え、下火になってきました。12月に流行のピークがありました。1月から2月にかけての流行規模は例年より小さく、県内の「注意報」はすでに解除されています。今後、終息に向かうことが期待できます。

溶連菌感染症が増加し、県内に「注意報」が出されました。発熱とともに咽頭痛が強くなる感染症で、的確な抗菌薬による治療が必要です。

感染性胃腸炎の発生も目立っています。小児は脱水や低血糖になりやすく、ぐったりとしている場合はすぐに受診して下さい。

R Sウイルス感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症の発生が続いている。気管支炎、肺炎をおこす感染症で、伝染力も強く、集団発生しがちです。園での流行状況に気をつけて下さい。

風疹や麻疹の発生は当地ではありません。

新型コロナ感染症の発生が心配です。国内でも日増しに患者数が増加し、いつ大きな流行になつても不思議ではない状況です。今後の情報に十分注意していく下さい。今のところ、新型コロナ感染症に対応できるのは指定された医療機関だけになります。ご心配な方は保健所などに問い合わせのうえ、指示をもらって下さい。手洗いをこまめに、しっかり行うなど、予防に努めてください。感冒症状がある場合にはマスク着用をお願いします。

休診のおしらせ

- 3月21日(土)は休診にさせていただきます。
- わたぼうし病児保育室も医院といっしょにお休みです。よろしくお願いします。

マスク着用のお願い

- 発熱、咳、くしゃみなどの症状がある方は必ずマスク着用を励行して下さい。
- くしゃみをする時はティッシュペーパーやハンカチで。それがなければ袖で口と鼻をおおいましょう(咳エチケット)。

今月の予定

院長出務

上越市乳幼児健診 18日

上越市夜間診療所出務 18日

上越市休日診療所出務 28日

上越有線放送 「健康ライフ」 17日

FM 上越「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

FM 上越：木曜午後1:35頃～

上越有線放送：月曜午後6時～(番組内)

流行拡大期に突入

昨年発生した新型コロナ感染症は、中国のみならず世界中で発生が始まっています。

日本でも発生が拡大中。大型クルーズ船での集団発生を除いても、全国各地で発生があります。さらに、感染源や経路がはつきりしていない例が多くなってきました。

すでに日本も流行の拡大期に入りました。これまでの「水際対策」だけでは不十分で、拡大の拡がりを抑えることに注力すべきです。

●今、何をすればいいか

新型コロナウイルスは主に飛沫感染か接触感染でうつっていきます。空気感染はなく、一日中マスクをしている必要があります。

他の方と接近して会話する時はマスク着用がある程度有効でしょう。

接触感染にも注意が必要です。ドアノブなど、頻繁に手を触れる場所がとくに問題になります。

ただし、皮膚にウイルスが着いた

だけでは感染はしません。皮膚を通してウイルスが体内に入つていくことがないからです。「汚染された手」

を目、鼻、口にくっつけると、その

粘膜からウイルスが体内に侵入して感染がおきてしまいます。

その意味で、やはり手洗い（頻繁に、かつ丁寧に）はとても大切です。

また、マスクをはずす時に表面を触ると手にウイルスが着くことがあります。はずす時はゴムを持ち、もし触つたらすぐに手洗いを。使つたあとのマスクの後始末もきちんと行つてください。

子どもたちのマスク着用は、かえつて有害なのではないか、という

意見もあります。マスクを手で触り、それを口や鼻に着ける。かえつてウイルスに感染させることがあるからです。

小さなお子さんはマスクをいやがります。無理せず、周りが気をつけている下さい。

新型コロナウイルスは腸管内でもしばらく残っているそうです。肛門からの排出があり、「糞口感染」も

オムツの始末と、その後の手洗いをしつかり行ってください。

●受診のめやす

新型コロナ感染症に特有の症状はありません。政府は「4日以上発熱があれば受診を」としています

が、子どもにそれは当てはまらないでしょう。感冒症状があるなど、ご心配な時は通常通りに診療を受けて

幸いなことに、今のところ小兒はあまり重症にはならないと言われています。事態を見極めながら、冷静に判断していく下さい。

ただし、新型コロナ感染症が当地でも実際に発生し、大いに疑われる時にはあらかじめ保健所などに相談してお願いします。

経験的漢方論(15)

鼻炎・副鼻腔炎に効く漢方

風邪をひいたあと、熱が下がったり、咳もなくなったのに、鼻汁がいつまでも続くことがあります。鼻炎、あるいは副鼻腔炎（蓄膿症）を起こしたのかもしれません。

これも私自身の経験です。私はアレルギー疾患はなく（お腹が弱いなど、いろいろ弱点はありますが）、花粉症などには無縁でした。鼻水、くしゃみ、鼻づまりといった鼻炎症状は、風邪をひいた時だけでした。ところが数年前、風邪の急性期が終わり、やれやれと思っていたのに、鼻汁だけがいつまでも続きました。やや粘稠で白い鼻汁。とくに朝起きた時に、流れ出るようにでてきます。鼻づまりもありました。

これは感冒後の副鼻腔炎なんだと思います。まず内服したのが「葛根湯加川キュウ辛夷」。速効でした！ その場で鼻づまりがとれ、息が楽にできる感じに。1週間ほど続けて、症状はずいぶんと軽減したのですが、まだ治りきっている実感がなかったために「辛夷清肺湯」に変更。1か月ほど続けて、症状が完全にとれ、終了としました。その後ときどき朝に鼻汁がでると「葛根湯加川キュウ辛夷」を頓用で使っています。

赤ちゃんにとっては鼻汁が多いと、鼻が詰まり、呼吸がしづらくなります。夜寝苦しかったり、乳汁を飲みづらくなったり。たかが鼻風邪なのですが、赤ちゃんにとってはけっこう重い症状。見ていて可哀想になりますね。

いわゆる西洋薬には、赤ちゃん（とくに生後半年まで）に安心して使える鼻炎薬がありません。ここにも漢方の出番があり、重宝しています。